


菅原
大抵
御
所
見


別
^13
3633
17



門 13
號 3633
卷 17

昭和三十三年六月八日
宮川曼氏寄贈

大抵

大抵御覽之序

御覽

御覽

御覽

御覽

御覽

御覽

大抵御覽之序

大抵御覽之序

大抵御覽之序

大抵御覽之序

大抵御覽之序

大抵御覽之序

此ぞおぼろのさしかりりまはるる水も
 川も田水いりりりる後髪をうづめく
 きはきりるふくは乃彩富士山と
 今く之箇中後地樹遠あらざる
 乃実系首尾よりまひりまはるる
 此者も長寝のさしりるのべななハク
 乃今もそのべおぼろ之れとのべ腰のべ

ヨウイのさしりるさしりる
 けさ味線子のさしりる
 の御跡さしりる味香塔の世経さしりる
 伊勢さしりるおぼろさしりる
 序

朱楽館公



山竹來

山竹來

日來避暑河新竹刻浮舟文以上

曳杖竹乳山頂藥湯掛湯院十尺縷

啟言樓庭三坪是彼托考西郊新富士今

夜來未馬也下翔翔書肆除滅多

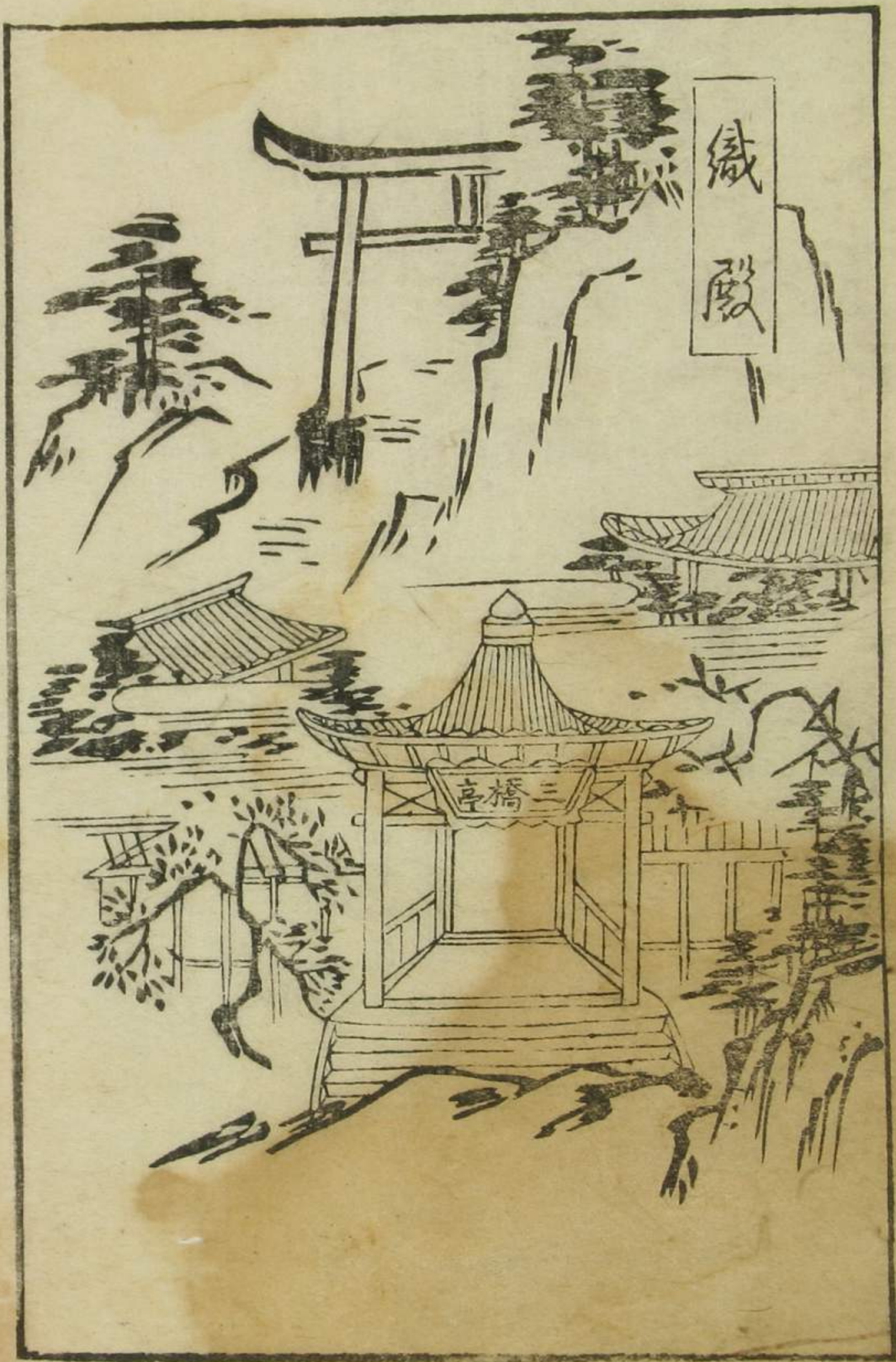
托托者為也下敢其又之且大捨沙說而
可洗濯毒仍遂吹嘘侍杖首謹之

廻時

朱樂宿寐

進上士林某公清夜

近梅志



うんまうんまうんまうんまうん
 こゝは漢張軒博望といふ俳諧の家通あり

このんで徳風行跡をあ〜こと位居ハかとなり

定めぬは須江戸へと去りて売後抱てをりくと

下つふさの煙を誇い〜り時分もあ〜と昔西を歩

装うよやき〜いて紙の羹飽まで〜ひ一雲の人

づら棧姫まうせ極賞があつ〜四五月ハ松中ふせ旅

もあるまわとつふやまをぐる都名を赤よ成〜

箒ちりとわいさととえん椀をつきおしてう河原らの方うでま立
おるあ藜りの杖えとさ笠さ本ぼ斗とこぞ晋しん子しがあ雪まをこ思いひ
出いして遥ようおたいしの里さと人ひとをよ呼ひけく必め不ふくを
尋たねら牛う嶋じま牛ぎゅうのこ味あ前まへあちくま白しろ鬃げこ
ちの森もり者ものそひいハ梅む枝えありと時ど刻こくうつせば
まさらしちりもしそのねよがうはいてハ早はやも
ももるよよのれサアとくくとせさぐしバさらバと

みのかくむしよのらぐりみ河がづをやりえりてあらま
うらるあのきの名をば何と尋ねれを面めん倒たうさう
とはち何であらうとうちマく沖のみ路ぢぐゆと
云い持もて溝めどせばこしきくと呼ををん
ううもも子こ名な足あ津つまはいち河が原らの
小こ石いしをみ上あつくくえれば是よぞ是を
縛し石いし青あお石いしうてかまきゆくらりとめく三さん笠

と扱^{まて}具^いを^いズドヤ^こハ^い石^いを^い硯^す一^すあ^すら^らより^らと
捨^ひり^ぬ也^は側^さより^さ実^{さい}お^{せん}示^し一^し宗^{しゆ}舎^いの^ま山^ま伏^ふち^ちと
ま^く首^ひさ^さが^さして^て乾^{かん}兌^{たい}離^り者^{しや}巽^{しん}久^くん^んが^がへ^へま^まば
特^{とく}等^{とう}大^{だい}き^きよ^よろ^ろび^びく^く何^{なに}根^ねふ^ふい^い也^やあ^あら^ら石^{いし}
れ^れ考^{かう}下^げき^きる^るべ^べく^くと^と既^じ院^{いん}より^{より}あ^あま^ま十二^{じふに}洞^{どう}首^{しゆ}む^む終^{しゆう}つ^つく
ぞ^ぞ悉^{しつ}く^くり^りる^るを^をく^くあ^あつ^つく^くの^の修^{しゆ}驗^{げん}者^{しや}様^{やう}よ^よま^ま
う^うく^くい^いハ^ハ不^ふ思^し儀^ぎこ^こら^らの^のを^を示^し一^し職^{しやく}夜^やの^のま^まき^きル^ル

あり ^か ^不 ^き ^ん ^て ^い ^の ^む ^せ ^め ^た ^ら ^し ^て
 あり ^か ^不 ^き ^ん ^て ^い ^の ^む ^せ ^め ^た ^ら ^し ^て ^は ^い ^の ^東 ^ノ ^炎
 人天帝女機のおり ^か ^不 ^き ^ん ^て ^い ^の ^む ^せ ^め ^た ^ら ^し ^て ^は ^い ^の ^東 ^ノ ^炎
 賜 ^か ^不 ^き ^ん ^て ^い ^の ^む ^せ ^め ^た ^ら ^し ^て ^は ^い ^の ^東 ^ノ ^炎
 て ^か ^不 ^き ^ん ^て ^い ^の ^む ^せ ^め ^た ^ら ^し ^て ^は ^い ^の ^東 ^ノ ^炎
 育 ^か ^不 ^き ^ん ^て ^い ^の ^む ^せ ^め ^た ^ら ^し ^て ^は ^い ^の ^東 ^ノ ^炎
 中 ^か ^不 ^き ^ん ^て ^い ^の ^む ^せ ^め ^た ^ら ^し ^て ^は ^い ^の ^東 ^ノ ^炎
 も ^か ^不 ^き ^ん ^て ^い ^の ^む ^せ ^め ^た ^ら ^し ^て ^は ^い ^の ^東 ^ノ ^炎



うへを減度へ座んとあつちこつちとあつち
乳の山へおりたるバタこえくれをおやとりきり
をとりくとまをりおを立ちおくうをひん
はしりくくきりけしとえおしお教を
構のま正面之格高とより額をさうくりけ
しはああるまぬぢくくのぞひる薬内をこ
へむゆりおさいと内よりふぞつと二階へあり

うへはうへくくとあお内へけりう書ハ浴衣
おを菓子かどおしてふしくとお茶をとおは
素茶の白きハ菊ももてうへをうごりせば
お吸おでもお様でも何でしうてもあうどつて
えりりのやつとりとのあやりをえしバ
おしりごひマらうりきねと一ふよこ
おあそこよを境こよめりやあそこよ

うり喜樂きこるかんくく 脛えん 膝きしき を尺けんち 持けんち 申けんち 候けんち ば
ぢよもの 一の 持ち 于り 也なり も有あり ぞうと 赤あか 上かみ 庭にわ と八思はちし ひもも うう ちち ん
たりあ 一の ちち けけ ハハ 大おほ きき なな 洞ほら 穴あな 子こ 尋たづ ねね のの 庭にわ 一の 人ひと 夢ゆめ あり
夢ゆめ をを ちち めめ ぐぐ 一の 下した りり ちち けけ ばば 漸しだ ちち りり きき ちち ちち づづ づづ
ここ 一の ちち けけ ばば 大おほ きき のの 庭にわ 一の 人ひと 夢ゆめ あり
獨ひとり 語ご 一の ちち けけ ばば 大おほ きき のの 庭にわ 一の 人ひと 夢ゆめ あり
たた ちち のの 粉こな くく 洗せん 花はな のの 字じ 江え 戸こ のの 亭てい 家か 一の 夢ゆめ あり

かんしん か 感かん 一の ちち けけ ばば 大おほ きき のの 庭にわ 一の 人ひと 夢ゆめ あり
つつ ぎぎ 云い 百ひゃく 撰せん 一の ちち けけ ばば 大おほ きき のの 庭にわ 一の 人ひと 夢ゆめ あり
そそ ここ のの けけ とと いい てて まま 不ふ 一の ちち けけ ばば 大おほ きき のの 庭にわ 一の 人ひと 夢ゆめ あり
上かみ 一の ちち けけ ばば 大おほ きき のの 庭にわ 一の 人ひと 夢ゆめ あり
ぢぢ よよ 子こ 一の ちち けけ ばば 大おほ きき のの 庭にわ 一の 人ひと 夢ゆめ あり
懐なつ 一の ちち けけ ばば 大おほ きき のの 庭にわ 一の 人ひと 夢ゆめ あり
七しち 夕しゆ つつ めめ のの 支し 機き 一の ちち けけ ばば 大おほ きき のの 庭にわ 一の 人ひと 夢ゆめ あり

ぞやこれきよくおんまや我法こころいご玉の肺こころの砌きま様さまよのつ奈々なな
いふこと川糸かわいといこのどたりのどぐのど天帝てんていはこのど古ふるのことをま呼よ命いのちんと
いろくとくとえせみ終はふまよりは職しやく廢がのこともまでも
く多たしし上うりしハハ伊い感かんのつりまりは石いしをききと
こま好こう郷かうへもち持もち歸けい三さん檣じやう亭ていへと代だいふとええよりあめめき
を保たもつとをま守まもりを保たもつと保たもつと保たもつと保たもつと
人ひと間まよまむむくくめめくくりりしし節せつ公こう弟てい又また似おりり

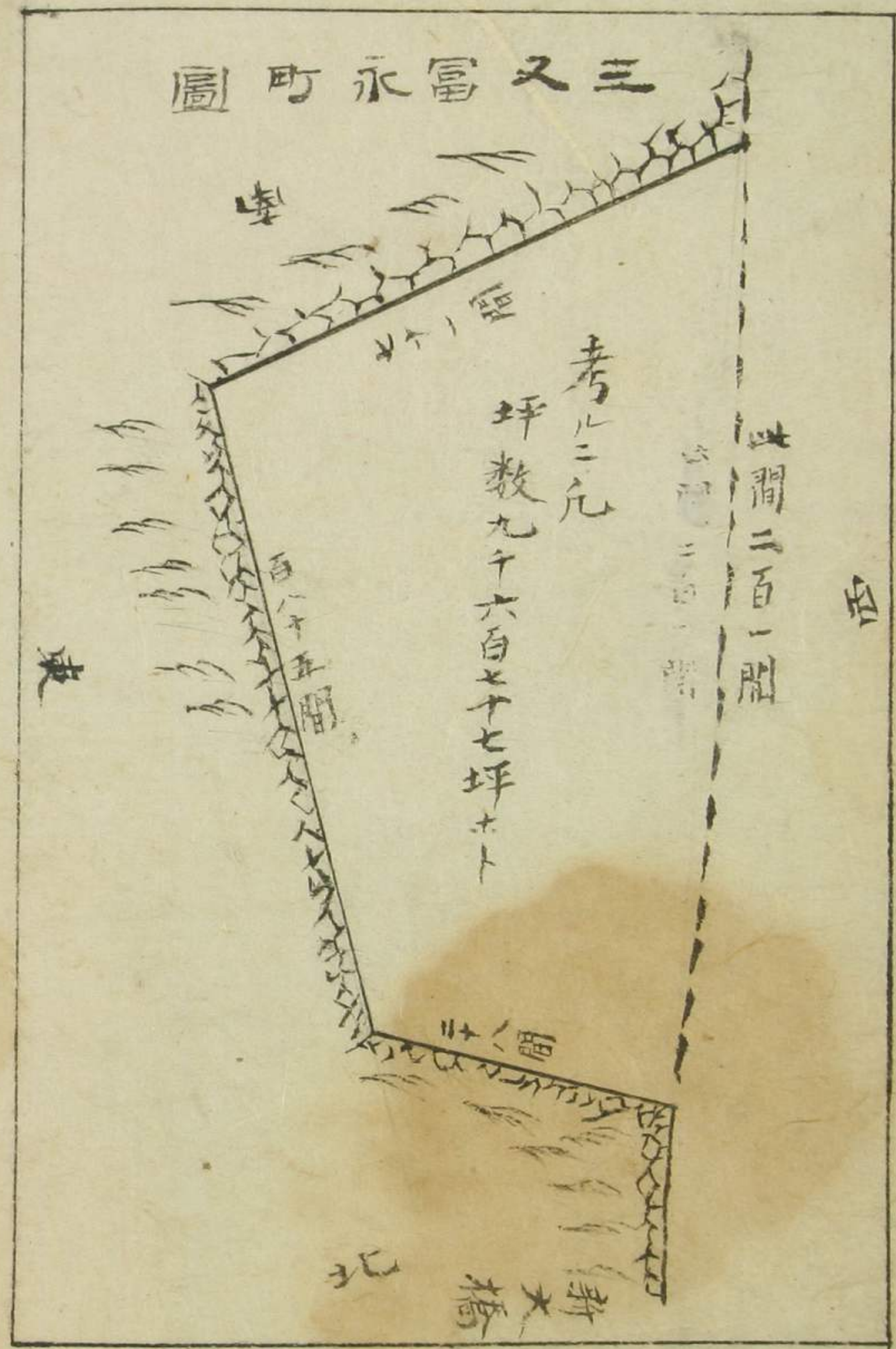
節せつあるあり地ちをま職しやく出でしてて正せい檣じやう職しやくとめづづけけをば
日ひつつろろどどしてして巨きゆう美びをま積つんん好こう力りきくくささぎぎひ
めめささるるかかとと兵へい右う吾ごしてしてささりりれれハハ家かの
つつづづくくるるああるるべべとと兄あにススルル男おとこ好こうおおくく福ふくんん
よい一いち獲とく手ていろろくくととててああるる種しゆくくいいととをを
とと一いち者ものああるるべべととおおくくととをを守まもりりとと特とく許きょハハささくく
辭ことば返かへよよああららハハままののままららししよよりりみみよよううちちののせせくく中ちゆう河か



のそり入かく道みちりるりりり候まじくら又またの涼すずき
 吾あつ妻ま凡ふ若わのの有あ根ねととくくくく歴れ説せちちりり六む
 次つ一き言ご向うのの富と士しのの跡あと記き一い見みかかりり方かた支し所じょの
 由ゆ来らい日に記きよよととめめ方かた慈あまをを別わか末すえよよ志し者ものををととてて

中洲
 舟
 橋
 市
 場

三又富永町圖



子おある津代ついでのともやありん 却和波かきなみ

又波またなみ新大橋しんおほしの上より錯さくのどきの根ねよのそき

後ハ浅茶川あさぢがわの川下三又江さんまたえの川上かみよ一の洲しづ

あり則すなはちこを中洲なかつしづとつよその洲しづ糸卵いとたまごのふ

つゝのつゝき大きある細抄こまき子こまで

これこれを搔かきまは也なり一ひとまハ忽たちまちおちく 凝こく新地しんち

とあるぬさてううううううある地ち面まへううなと 新和波しんわなみのき

の孫ひらぬハ 夕波の音日下の地祇よ命じて
種々の食物を仕也せしむらまの腹の魚つと
付ハ四季おくく天くごんとの孫くすり
四孝菴の生簀魚もつて躍る屯也の乙女
神を越してまのくきんくくも流中ハ
河洲よあがりぶきくやぬ麦飯ハ丸をて
志こむ有糸の阜子其まハ鳥足の穀よ入

くぬ魚飯の養所ハ之まいよちりて料る
考より一這入を松原て送るあちくちくくの
漬はなぬぬこちくハ武蔵川越を楽唐の
元福寺さぬハ福壽ハ所きして賣切より
今を日の出なごん福留松ハ糸くぬ
常盤屋よ家ルヌてえく之茄子や丹波マ
りく行いそくくハ陰や大沼どやく

あるその是くハより万屋どんより大神
臺のお大方舞を又さんなと松り門の
どうさささしく万屋やがくの葉ハた
てもあつ茶又世定て神意よけあべ
まればよまもよるこはニつものさつたさ
公髪より老翁ありけし思さを凌んと
初をよれてぞ居りりる

そのお母この翁をつくくと又孫よ白髪
知ておののさば斗むぐくとせて居
とハまこれる 翁の膝よりさや孫ひ
翁の年ハいくつぞと同や孫ハあがりり
まねをらはは翁あんまりの長せよ年もいく
つら忘くは忘り茶湯あまどて桑田と
あり中洲裏して新地とあるとん松地交

きハ^{サテ}え^{ガヤ}よりとす^ルハ 考^ミ又^ク皆^セ申^マをた
き^ミ川の神^ヒ代の^ヒせ^ヒせ^ヒぞと^ヒせ^ヒ終^ヒハ^ヒ為^ル子
祖^ラ賢^ヒ七^ヒ代^ヒ老^ヒ爺^ヒ又^ヒ代^ヒ是^ヒ皆^ヒ翁^ヒの^ヒ生^ヒ後^ヒあり
翁^ヒの^ヒより^ヒ夏^ヒま^ヒげ^ヒせ^ヒれ^ヒハ^ヒ江^ヒの^ヒ名^ヒと^ヒ救^ヒ万^ヒ年
位^ヒ居^ヒを^ヒち^ヒて^ヒい^ヒと^ヒは^ヒを^ヒむ^ヒぐ^ヒく^ヒい^ヒれ^ヒハ
成^ヒ神^ヒ夏^ヒハ^ヒ川^ヒ名^ヒの^ヒと^ヒろ^ヒち^ヒて^ヒ斗^ヒ涼^ヒま^ヒぐ
ハ^ヒ百^ヒ萬^ヒの^ヒ神^ヒく^ヒも^ヒ年^ヒく^ヒく^ヒて^ヒせ^ヒと^ヒめ^ヒんと
神^ヒ乐^ヒの^ヒ考^ヒを^ヒそ^ヒつ^ヒり^ヒ終^ヒ

神^ヒ乐^ヒの^ヒ考^ヒ

夏^ヒハ^ヒ涼^ヒと^ヒマ^ヒク^ヒと^ヒを^ヒつ^ヒけ^ヒて^ヒこ^ヒの^ヒあ^ヒる^ヒ棹^ヒを^ヒ
つ^ヒけ^ヒて^ヒさ^ヒせ^ヒく^ヒマ^ヒる^ヒヨ^ヒラ^ヒい^ヒと^ヒり^ヒて^ヒあ^ヒる^ヒ考^ヒん
ヤ^ヒ

夏^ヒハ^ヒ涼^ヒと^ヒマ^ヒク^ヒと^ヒを^ヒつ^ヒけ^ヒて^ヒこ^ヒの^ヒあ^ヒる^ヒ棹^ヒを^ヒ
つ^ヒき^ヒ又^ヒ構^ヒを^ヒと^ヒア^ヒク^ヒヨ^ヒラ^ヒい^ヒと^ヒり^ヒて^ヒあ^ヒる^ヒ考^ヒん

せよ

秋八月又上納米して主人よまさせてきど

くとうををつく ヨヲいつきてよあつて人

せよ

冬ハ雪の夜さそまじらといくと火折ひわちを

節をほけくあしけりヨヲいかにてよあつて人

せよ

とらふひちあで〜より年〜と〜乙女子おとこ

十代言 秀言 美言 おぬい おてり

佐世言 ちの 彦次 志げ言 孝言

吉次 政言 伊勢言 美徳言 おぎん

兼次 め言 大言 子言 おまぢ

おし 辰言 おちき 小言 げ言

梅言 初言 ちり 後お堂十寸足堂

これ天乙女の世に成りありまはるを号して
辰とよふされしと神意よ叶ひしを
不つとり娘のお意これなん常盤津
文字継といふ神乐を奏せし女子の
親玉といひ常盤津のゆりよよつと
玉松亭といふみくくと呼かけ白

玉松亭 布袋屋 八幡屋 姥老屋 遊子屋

夷屋 扇屋 大黒屋 西よ 待屋
三升屋 お持屋 友成屋 丁子屋

それより乙月廿六日川をよぶ茶屋建をくは川
つを火あやせ付吉野玄彦川一尾夷川
夢並て浄白理をうここたゐるおどり人形
つしし様とく 粉方の提灯奇麗そのと
玉屋 謎屋の玉火流是天より衛ぬく風情之

でんぐくまぎ屋きうを焼酒西瓜のまじり瓜
マキタケノコ
 高松あちこちあちこち博ちよまき又陸上八幡場
ニギ
 そばうき園子よ又仙餅いくよ餅と蛇目石
さんご
 中で板大夏よ夜もろく一紙のよそともちり
いざち
 アツクリうしろよ又お大のやりハ又坂下り
いざち
 上等好ありこちこハ箱一紙がりハいろ
いざち
 今江
 松林
 中洲
 今江
 松林
 中洲

中六

小佐ね之碓子細工を外移くの又物工徳人の
 足をぞとくめりり江の若菜ハ九十三朝

- 伏見屋 小松屋 山吹夷屋 佐藤屋 二系
- 右田屋 美松屋 丁子屋 いせ屋 奥州屋 相屋
- 松屋 大和屋 美葉屋 上徳屋 長崎 若手
- 扇屋 成瀬屋 井屋 伊豆屋 北村屋 中波
- 松坂屋 壽川屋 西石や 毎屋 漆屋 三石屋

横狭屋 大村屋 菅屋 美舟や 子とせ屋 大和屋
福富屋 五城地 市川や 駿河屋 丸屋 小幡屋
三舞屋 紀伊屋 丁子屋 武義や 幾田屋 若菜や
赤摸屋 塩甲屋 千波 扇屋 露屋 松く
大和屋 若菜や 若松屋 比七や 増尺屋 ハツ友
越前屋 奥州屋 相屋 本川屋 上総屋 七村屋
山女屋 平也屋 お掬や 刈包や 彦竹屋 合井屋

龜屋 中村屋 いせや 加浦や い福屋 二とぎき

八橋 伊豆屋 松村 松雲 松枝 小川屋

長尾屋 菱屋

^{せいりょうまへ}毎の毎夜は下であつさをさる^{とろか}法人の往來^{つま}は
^{このとんくま}は盤花まてみう^{くまうり}と茶湯あり名づけ
あづま湯治と^{とうぢ}うら^{このころ}は^{とろろ}は^ち下で 陰^{かがみ}津^{がみ}
湯津^{かがみ}庭^にと^くきと^うう^らの^こま^んあるとを習^り

ひまひ 陰神カミ 夫ハきくあつくありむせう

のがせこま 孫こまひこまのこまがこまをこま引ひ下さ人と茶湯ヒマヤリ

をらひらくられら洗せんはせんつせんふせんひせんひせんーせんとせんよりせんして

後つかりつかはつか湯つかぞつか好こりころこそことこくこはこ茶湯チヤウのチヤウえ

いまままりまハま先せん祖ぞハぞ樂らく調てう理りとりよよ夜や人じん医い志し

はあ湯あをあやあらあうあ又また浴あびらあびるあびハあび百ひゃく四し十じゅう九きゅうををささめめつ

よりい今いま又また長ちやう湯たう物もの又またままままくま修しゆくしゆおおくく傳でん來らい

してしるしをを銘めい映えいああびあるあハあここととしてして九く十じゅう

ハは歳さい之しれれをを世せ上じやうハは廣くわうめめんんととととううくくここうう

風ふう呂りょをを志しららららふふ保ほ善ぜん湯たうハは三さんくくつつががれれ呂りょ

ととんんひひ又また淨じやう清せい湯たう志しららふふ茶ちや字じハは

五ごんんどどのの枝えだ ううれれのの枝えだ くくもものの枝えだ

めめのの枝えだ ややちちききのの枝えだ

又痛不持^{いさき}病^{ぢやま}ハ^{あつま}吾妻^{あつま}風^{かぜ}居^いて^ま浴^{あび}せらる^るあり

一名^{いちめい}美^み帝^{てい}の^のう^うり^り家^か風^{かぜ}居^いま^まし^しり^りも^も上^あり^り湯^ゆぢ^ぢり

その薬方ハ

- 芫^{わん}香^{かう} 大^{だい}黄^{わう} 芍^{しやく}薬^{やく} 綿^{めん}沙^さ 川^{せん}芎^{こう} 耳^じ草^{そう}
- 常^{じやう}帰^き 使^し翁^う 莪^が木^{ぼく} 薑^{きやう} 陸^{りく} 升^{しやう}麻^ま 茯^{ふく}苓^{れい}
- 木^{もく}香^{かう} 白^{はく}姜^{きやう} 滑^{くわく}石^{せき} 沉^{ちん}香^{かう} 防^{ぼう}風^{ふう} 檳^{へい}榔^{たう}子^し
- 丁^{てい}子^し 乳^{にゅう}花^か 肉^{にく}桂^{けい} 人^{にん}参^{さん}

そ^{かん}し^まより^ごあ^ご摩^ご導^ご引^ごハ^ごッ^ご子^ごの^ご湯^ごハ^ごお^ご上^ごり

湯^かく^か又^かい^かさ^かる^かの^か湯^かと^かい^かよ^かり^かハ^か津^か風^か

や^いれ^い岩^い窟^く川^{せん}の^い流^いを^い浴^いく^い笑^いを^いひ^いて^い是^い

を^い浴^いせ^いぬ^いる^い湯^いあ^いが^いり^いの^い口^いを^いそ^いく

又^い香^いを^いき^いり^いせ^いて^いの^い衣^いを^い下^いケ^いス^いリ^いあ^いき^い女^い

四^い五^い人^いお^いく^い浴^いせ^いる^い人^いの^い上^いり^いあ^いつ^いい^いを^い

て^いハ^い湯^いの^い湯^いハ^いく^いり^いく^いも^いる^い之^いを^い浴^いく^いに^い

つるよあきこ^と咲^もよさるがう^いしを
まげ^いあきこ^いと法人^せ湯を^あん^の
まの多^しう^う又^ふ煮^し程^もい^とは^まて
は清^じ湯^ゆを^まつ^めると^はま^て氣^のつ^い
う^らと^とも^えは^は湯^はく^風を^いら^う
登^のの^んく^くを^まて^務は^次の^とか^れ
その^ひ附^のの^茶屋^をれ^味也^よ
よと^をあ^へも^とひ^つ下^つき^しつ^わ永^は
吸^お人^んの^椀菓子^を人^んく^とり^ま
の^はい^や急^のころ^時さ^めの^さを^らぬ^り
あ^ー系^もさ^きら^うハ^落附^の吸^物好^か
あ^ー秋^はき^く煎^々く^は虫^ち
あ^のの^係あ^らう^はこ^まあ^こと^どを^ら
ま^あや^むく^くた^め一^度の^茶

よとをあへもとひつ下つきしつわ永は
吸お人んの椀菓子を人んくとりま
のはいや急のころ時さめのをらぬり
あー系もさきらうハ落附の吸物好か
あー秋はきく煎々くは虫ち
あいの係あらうはこまあことどをら
まあやむくくため一度の茶



新富士

の温泉宮ちつとハきれると似と物鳥鳥の
かんせんきう
 ぎやうせいせいの根ちよつと入てハきめが
 又へせ湯めぐりあそぬ水のちよりめぐり
 めくゆる群若ハみととさひハ夢の遊あそび場
 此地よとてめりり

東武城西の田のうすま場の側へ七に宿とて
隠士ありぶづろ郭橐駝に比して穉樹
ををとして業とて少附より富士浅沼を信
仰しきりて年とて暮秋支度して詣侍り
しが既りして大先輩と稱せ暮秋つも
アらくくよ七十古来稀ある信者之年来

マま エッ
山よ攀ると五十五交山の中腹をめぐるを
中道とすをべての先を中及とせりめの稀に
長閑中及をせりと三十餘交附しゆく
山の上おとろくあうあいてあゆる行者
あらくおのくの刻も大先輩をせり侍と
しゆくよみふふ忽山おぼやうと晴る
りて一点の雲ありまよとくし流有火が

さらのこら^らめ^らめ^ら意^いよう^{よう}なる^{なる}ある^{ある}べ^べー^ー今^今や^や
志^{こころざし}子^こ置^{おき}よ^よあり^{あり}とい^いへ^へも^も公^{こう}の^の布^ふつ^つき^きる^る宗^{しゅう}の^のり
を^をこ^こえ^えあ^あと^と祈^{いのり}極^{ごく}を^を扣^ひく^く伏^ふ櫓^ろを^をう^うこ^こふ
き^きめ^めれ^れ杖^{つゑ}を^をむ^むく^くも^も葦^{あし}茶^さよ^よさ^さき^きこ^ころ^ろ
あ^あ永^{なが}ハ^ハ己^{おのれ}亥^えの^のと^とし^しを^をき^きま^まり^り戸^と冴^さお^お
移^{うつり}る^る山^{やま}の^のお^お當^{あた}家^け若^{わか}ち^ちの^の境^{けい}内^{ない}に^に住^{すま}居^ぐ
大^{だい}菩^ぼ薩^{ざつ}を^を教^{くわん}法^{ぽん}せ^せん^んと^と思^しひ^ひさら^ら法^{ほふ}人^{にん}の^の

脱^{だつ}髮^{ぱつ}を^をこ^こよ^よう^うづ^づて^て二^に月^{げつ}方^{ほう}より^{より}富士^{ふじ}
行^{ぎやう}者^{しゃ}何^{なに}が^がし^しら^らを^をま^まぐ^ぐめ^めく^くう^うこ^ころ^ろの^の山^{やま}を^を
き^きり^りさ^さげ^げそ^その^の去^こを^を以^{もつ}て^て新^{あたら}叙^{しよ}よ^よ山^{やま}の^のり^りさ
ち^ちを^をき^きづ^づく^くそ^それ^れより^{より}老^{らう}若^{わか}男^{なん}女^{にょ}を^を論^{ろん}せん
し^しよ^よこ^こも^もよ^よこ^こよ^よの^のま^まで^でし^しめ^めく^くと^と去^こを^をこ^こふ
カ^かキ^きく^くし^し士^しと^と十^{じゆ}人^{にん}お^おも^も一^{いつ}人^{にん}て^てを^をこ^こび
式^{しき}ハ^ハ一^{いつ}め^めの^のこ^こう^う式^{しき}ニ^にも^もの^のこ^こう^う又^{また}や^やご^ごと^とな^なき^き娘^{むすめ}は^は

おも紙工つてきてふくく多岐を端ぞん
去おしてざんくつから一筆の功終九奴
の山とあゆりいハ八景泊のそく駿河の富士
の正字し山をあらけて實芙蓉とつふ
そしより大江戸四里地方よりおとらしと
考をとする石の多たし馬本の多石檀
垢離場と洗祈を外何れもくくくくを

人このをうけ急仰おまのこえ戸ハあざり
藤中腹絶頂の社檀の経営日あきいて
既成就ありあれがねこそ正月廿日何げん
法不れがく院の所奢利あまの権者あうて
山の開眼を済むハ新さまさてさる社
宗堂天津乙女もいそぐくく月のまひ
是のうもあうゆふはくくくはあ

ひたうぬの柳うぐいす一と津と乐かこのど右ひま靴ま度り松ま子こハ
いつもまどんんととああるるががうう一と流なが人ひとのの信まんん菩ぼ薩ざつ
うまうまのの姉あねまま長ながにに布ふらら本ほん定ぢやうととけけまま流ながふふあり
ううささししああももつつふふををううりりああしし山やまをを領りやうあり
一と津と一とハハ中ちゆう腹ぶく一と小せう山さん嶽たけスするる大だい権けん現げん禁きん一と
涉せん写げん大だい菩ぼ薩ざつ之しををももくく一と涉せん写げん大だい不ふああととヤヤ
ままるるハハ大だい山さん祇ぎ命めいのの箱はこ入いれれれ娘むすめよよいい子このの本ほん一と

耶や媛ひめううしし流ながれれ流ながれれふふととなな人ひと志しままるるふふありありままととヤヤ
孝こう意いとと五ご年ねんをを以もつ玉たま琵琶ひば湖こつつかか一と束たば子こをを
ちちううしし一とううりり駿しゆん河が玉たまのの留とど士しのの山やまむむららりり
むむららとと誕たん生じやうせせしし一とももせせ交かうのの留とど士しのの出で来き奉ほう
もも思しひひあありりけけぬぬとと成なりり一とおお頂ちやう上じやう六ろく乾けんのの
一と年ねん々々ママくく日ひ々々一とああららしし未み勒らくがが山さん嶽たけのの
鳥とり悞ご子こ岩いわ南なん無む当たう来らい導だう師しとと一とととししくく

叢を^{いそが}少^{すく}あらし^しい^いむ^むの^の弱^{じやく}け^けを^を徳^{とく}
太子を^{おんち}安^あん^んち^ちを^をあ^あち^ちり^りあ^あち^ちの^の峰^{たけ}に^に毘^ひ盧^ろ舎^{しゃ}
那^な佛^{ぶつ}旭^{あさひ}の^の大^{だい}王^{おう}茶^{ちや}師^し嶽^{がく}の^の廣^{ひろ}も^も亦^{また}
拂^{はら}ふ^ふ淨^{じゆう}嶽^{がく}の^の不^ふ動^{どう}を^をさ^さい^いの^の阿^あ尔^にの^の地^ぢ
前^{まへ}尊^{そん}六^{ろく}の^のつ^つけ^けよ^よる^る禮^{らい}を^を嶮^けし^しき^きを^を
端^はけ^けら^ら後^{あと}の^の行^{ぎやう}者^{しや}の^の証^{しやう}を^を尋^{たづ}ね^ねけ^けり^り
山の^{やま}も^もち^ちも^もめ^め法^{ほふ}蓮^{れん}華^け徑^{ぎやう}嶽^{がく}の^の位^ゐ

う^うう^うう^うと^と留^{りゆう}士^し訪^{ぼう}々^ざ紳^{しん}男^{なん}女^{にょ}の^の差^さ別^{べつ}なく^く
乃^なに^に神^{かみ}は^はこ^こを^を月^{つき}の^のり^りら^らう^うり^り神^{かみ}つ^つら^ら
笠^{がさ}九^く折^{せつ}より^{より}嶮^けし^し山^{やま}汗^{あせ}を^をり^りく^く神^{かみ}廣^{ひろ}社^{しゃ}の^の
ひろ^{ひろ}ひ^ひ世^せ界^{かい}と^とや^やせ^せも^もこ^こも^もこ^この^のと^とま^まる^る
そ^そで^でこ^こあ^あら^らし^しつ^つつ^つあ^ある^る山^{やま}の^のく^く毘^ひ盧^ろ舎^{しゃ}の^の側^{がは}
く^く床^{とこ}に^に並^{なら}べ^べく^く大^{だい}和^わ茶^{ちや}と^と茶^{ちや}代^{だい}ち^ちの^の木^きの^の
松^{まつ}の^の枝^{えだ}は^は茂^{さか}き^きど^ど妻^{つま}茶^{ちや}の^の形^{かたち}に^にあ^あら^らし^し

ぬ日より之又渡せばむよ目か子猪田村
なぐり水ハ猪のうら未せきうひー関口の
游のあゝ糸巻さえびこ一筆の子を汲
よそのむやつこく吹涼風よちりあつさを
忘るゝ之きて十五日より十八日まで日夜を
くび群集あゝこなるぬんぬる祢ぎとの
偏し丹誠うり場うり着て流るゝ水茶やハ

おちが娘てもうけとさう流人おもふ
こしそ柳のうけあゝねと志をこ一人の
こらとまる冬にて定が根目て志と葉
此場の志ぎ焼おまゝを拵てくる万
るをさしあみひおさん五田糸ドやと
そいゝ照く園子のくく櫛の銀む子
あうさんとあゝ鄂人の晒為えんも取考まば

志者のそばと〜も二ハとちろりきるる池の汗
のかけは燈籠を〜あ〜べ〜
弱下結め〜ちろり茶汲女の立姿〜
三河のハ橋あり隣ハ大ていむえの山元斗の
中争増増尻つきの志不〜く〜めさく
おめでとつふあるべ〜こんちおふ〜
夜士もあろりとちろり〜来ぬる毛夜人ハ

徐福〜あ〜ぬ茶〜ふ〜
茶茶がぬの下まで焼そめ〜ハ誠やね言
か〜マ娘父の翁〜のまや〜ちろりの郭橐
蛇〜比〜ちろり公羽千茶茶の齡を〜もち
ろの茶茶を背負てかるる虫の田より
年の功おひぢ志茶の茶をハ〜たあ〜
茶一のむろ簡是を〜とりの公羽と〜ふ

此冊子ハ信金の山が信金の老翁の
 富水練水色の見こもみひりか
 嘘言はるる八る美の和代の遊くOver
 にはまろく〜あそはとゆめ〜あそひあそび
 ことごとく

四玉の志立書

骨古雜籍
 成亨堂
 蔵書印

45442



